

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400153		
法人名	有限会社 楽舎		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 宇賀の里 楽舎		
所在地	島根県出雲市奥宇賀町23番地10		
自己評価作成日	平成25年1月5日	評価結果市町村受理日	平成25年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成25年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宇賀の里では、常に利用者の「何々したい」を大切に日々のケアを行っている。毎年初めに皆で今年目標を決めている。24年は、「仏さんを拝みに家へ帰って来たい、お墓参りに行きたい」と言われた想いを大切にし、「先祖を想う心を形にしよう」に決まり、個々にお墓参りにいかれたりしている。宇賀の里の理念である「愛・家族・絆の架け橋に・・・」と掲げてあるように、またいそが家族様との絆も深まっていたと思う。今年のありがとう会もたくさんのご家族様に参加して頂き、大きな感動の声を頂いている。面会時には、お茶を出し、宇賀の里での様子をお話する様にしており、ゆっくりご家族で過ごせる時間を作れるよう心がけている。今後も日頃からご家族と利用者が、共に過ごせる機会を多くもって頂ける様動きかけ、支援していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは木造瓦葺き平屋建で、四季を感じることのできる環境に囲まれている。内部は各所に木材を多く用いており、落ち着いてゆったりとした生活を送ることができる。共用スペースでは、利用者がそれぞれの望むことを無理なく行っており、身体的自立のみでなく精神的自立も確保され、自由で安らかな時間が感じられた。利用者が安心して暮らしていけるような支援がなされており、調査当日の利用者の笑顔や穏やかな表情をはじめ、職員の聞き取りや対応などから、利用者を第一に考え支援がなされていることが確認できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて、毎月スタッフが目標を決め、スタッフ間でもその理念を共有して実践している。	理念に基づき月毎の目標を決め、共有が図られ実践に生かされている。 業務にも工夫が凝らされており、外部との絆を大切にしたい支援が提供されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方からは、収穫した野菜を持って来て頂いたり、綺麗な花がたくさん咲いたと持って来て下さったりする。また、地域の小学生との交流(ハッピークラブ、学習発表会等)をしたり、近くの中学生のボランティアを受け入れたりして日常的に交流できる様にしている。	幼稚園や小中学生、またボランティアを含む地域との交流は多く、日常的に行われている。 地域に対して認知症の啓発の場ともなっており、地域とのつながりは評価に値する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に開かれた事業書であるよう、平田福祉フェスティバルに参加している。また、ありがとう会には地域のボランティアさんや、コミュニティセンターの方を招いて、楽舎の認知症の方の理解の為、支援している事を観て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様にどのような内容でどの時間帯が参加しやすいかをアンケートし、ご家族様に参加して頂きやすい運営推進会議を行う様にしている。	定期的開催し、利用者の様子や事業の報告が行われるとともに、地域との連携や利用者の状況に応じた支援のあり方などについて、活発な意見交換がなされており事業運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日々、連絡を密にとり相談や運営推進会議への参加を要請し、意見交換が出来る様にしている。	関係者と都度連絡、相談を行うことができている。日々の相談や会議を通して良好な協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルや内部研修を行うなどして、スタッフも身体拘束をしないケア提供への意識を高く持って支援をしている。	マニュアルも整備されており、研修会も開催され、身体拘束をしないケア提供への意識は高く、身体拘束は行わないケア提供がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へ参加し、それを内部研修し多くのスタッフが周知出来る様にしている。また、言葉による虐待も行わないようスタッフがお互いに注意を払いながら支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修を事業内で行い、多くのスタッフが学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時はもちろんのこと、面会時、日々の支援時にご家族様、利用者様に不安な点、疑問・質問等ないか伺い、問題を先送りしないようにその都度十分な説明を行い、理解を得る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、面会時に声をかけたりして、何でも話しやすい雰囲気作りを心がけ、寄せられた意見は速やかに検討し、実践し答えを返す様にしている。	家族にはホーム便りの送付や手紙を書いて日々の様子を知らせおり、行事には家族の参加も多い。様々な場面で声掛けもなされており、出された意見は日頃の支援へ生かす取り組みが構築されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社長、施設長と話す機会を設けたり、施設長から社長へ繋げ、検討反映されている。	全職員が目標を決め、定期的に管理者と職員で意見交換を行っている。スタッフ間の関係は良好で気軽に相談出来る体制があることが窺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、人事考課があり、スタッフが直接代表者との面談の機会を持ち、個々のスタッフが今後やりがいを持って仕事に励む事の出来る様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加の呼びかけをしたり、また、希望する外部研修へも参加する事が出来る。月に一度、内部研修をする機会があり、スタッフが目的に沿って内容を考え講義をし、日々の支援に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での研修に参加し、他事業書の職員と交流している。また、他事業所とのバレーボール大会を行うなどし、ネットワーク作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話に耳を傾ける機会を作り、心の安定が図れるよう思いに答えられる努力をしている。また、ケアマネジャーからの情報をきちんと把握し、利用者様の生活習慣に合わせた支援ができる様、スタッフ間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学して頂いたり、面談して話し合いの場を設け、ご家族様より悩み、要望、願い等を聞いたり、情報シートに記入してもらったりして、その情報をスタッフ間で共有して、ご家族様との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様の必要としている事について、本人様、ご家族様、ケアマネジャー、主治医より情報を得る様にし、楽舎で出来る必要な支援とは何かを考え、アセスメントし、必要であれば他の支援を含めて生活スタイルを確立できるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや掃除などできる事は一緒に行っている。しかし、スタッフは手を出し過ぎない様にし、本人様の自立支援に向けて心掛けている。若いスタッフが知らない事などを教えて頂く機会を持ち、家族の様な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日頃の様子をお伝えしたり、大事な行事には参加して頂くよう案内を出している。また、本人様の通院時にはご家族様に付き添って頂いて現状を知って頂く様にし、共に支えて行く様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に2、3回外泊をされる方は、その外泊の際にお墓のある寺に出向かれたり、ずっと通っておられた病院へご家族様と受診されたりしている。	馴染みの場所や店、希望する場所に外出する支援がなされており、利用者にとってのなじみの人や場所との関係継続は積極的である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格の合う利用者様、そうでない方の把握に努め、席の配慮に努めている。利用者様同士の会話を楽しんで頂ける様、橋渡しをしたり話題を提供し、良い関係を取り持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院または退所されてからも入院先や新しい生活の場等へ伺い、必要に応じて情報提供を行う事で経過をフォローするよう努め、関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からやりたい事、食べたい物、着たい服等何をするにもご本人様に希望を伺ってから決定をしている。言葉では伝えられない方は、ご本人様の態度や表情からくみ取り、本人の意向に沿う様に努めている。	本人の思いや意向に添うように努めており、意向把握が困難な場合は、利用者主体とし、家族から意見を聞いたり、日々の生活から意向を把握するよう努め、職員の一方的判断とならないよう注意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、記入して頂いた生活歴を元に普段の何気ない会話の中から生活歴をより深めたり、ご家族様面会時にその方にまつわるエピソード等をお聞きしたりしてスタッフ間で情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や身体状況が一目で分かる様にしてあり、日々の関わりの中で出来る事、できない事のアセスメントを行い、本人様の状況をスタッフは把握できる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の言われた事、思いをそのままの言葉で取り入れる様にしている。ご家族様の面会時には意見・要望などをお聞きし、本人様がより良い生活ができるように介護計画を立てている。	利用者、家族と話し合い、利用者本人の思いや暮らし方を大切にケアプランが作成され、日々の業務でプランを実践している。プラン作成時のカンファレンスに家族参加が得られない場合は、カンファレンスの記録を郵送するなどし、家族と一体となったサービス計画の作成が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づきを毎日の記録に記入し、気がついた事はスタッフ間で即話し合い、情報を共有できる様にし、利用者様の「～したい」を大切に笑顔で過ごせるようなプラン作りに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様が遠方に住んでおられ、なかなか来られない場合は通院などヘルパーやタクシーを利用するなどして対応している。また、ご家族様との外出や外泊はいつでも自由にして頂く事ができ、楽舎での宿泊もして頂く事ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様一人一人の顔写真と必要情報を記した物を置き、地元消防団の方や地域の方々に緊急時の協力が得やすい様にしている。地域の方を含めた行事の時や運営推進会議の時、避難訓練の時に楽舎の利用者様の事を知って頂く様に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後もかかりつけ医を継続してもらう事でご本人様、ご家族様が安心して受診できる様に努めている。受診は家族対応だが、必要に応じてヘルパーを利用したり、職員が付き添ったり臨機応変に対応している。	利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、家族等と共に協力し通院介助を行ったり、訪問診療対応の医療機関を紹介したりしながら、本人や家族が納得できる受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職や看護職がご本人様やチェックシート、朝の申し送りより気づきを得ると、問題を先送りにせず話し合う機会を持ち、異常の早期発見に努め、必要に応じて主治医へつなぎ指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、ご本に様の情報を入院先へ提供し、入院期間中も訪れ、ご本人様、ご家族様、病院関係者より状況を得る様に努めている。また、退院後には楽舎での支援をどのように行えばいいか、情報交換や相談の場を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族、主治医、管理者、看護師、ケアマネジャー、介護職員と話し合いの場を設け、楽舎でどこまで支えられるか楽舎にできる支援、ご本人、ご家族の意向を十分に話し合い、今後の支援方法を個々に対応している。	本人や家族の思いや意向を踏まえ医師、職員が連携をとり安心して納得した終末を迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備えたマニュアルを作成し、職員が正しい初期対応ができる様周知している。実際に急変や事故が発生した場合その都度、話し合いの場を設け、対応記録を見直し、誰もが落ち着いて対応ができる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練には、昼、夜を想定した訓練を行い、自治会や地元消防団にも参加して頂き、意見交換し、避難連携マニュアルの作成に取り組んでいる。また、災害を問わず、連絡網を円滑に回す練習をしている。	避難訓練・消火訓練を利用者も交え行っている。運営推進会議を通して地域への協力依頼もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の誇りやプライバシーを損ねない様、敬う心を持ち、きちんとした敬語を使うように心がけている。声掛けをする時は、「～しませんか？」と本人様の気持ちを尊重するに声をかけている。	尊厳の重視に関しては、研修や会議等で全職員への徹底が図られている。居室に入る際のノックや声かけなど、日常の様々な介助場面でも配慮が伺えた。個人情報保護に関する対応も的確である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～したい」等日常生活に置いて、自分の言葉で自己決定できる様な声掛けを行っている。食事では、食べたい物も自分で選んで頂き、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出の希望があれば、買い物やドライブなど出来る限り沿うようにしている。食事、お茶も好みの物を選んで頂いたり、場所を替えたりしている。利用者、家族、職員のそれぞれが出来る事を考え、取り入れられる様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、ハッピー号(移動理髪店)を利用し、本人様の希望を聞き、好きな髪型(色、パーマ等)ができるようにしている。また、その日着る服もできる方は自分で選んで頂き自分で出来るおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好きな食べ物、食べたい物を伺い、準備、片付け等を一緒に行うようにしている。また、季節の物を取り入れたメニュー作りや食べる場所を変える(外食、遠足等)などして楽しめるように努めている。	食事は炊事、準備、片付けも利用者と一緒に進んでおり、食事は利用者と同テーブルで食べており、世間話などをしながらの和やかな食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の器やコップを使って、食べる量や栄養バランスを考え、希望を取り入れながら日常で習慣にされていた食後のコーヒー等をお出ししたりして、水分量の確保にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一緒に口腔ケアを行っている。本人様の口腔状態に合わせた歯ブラシを使用している。基本はご自分でして頂くができない所は伺いながら職員が行っている。また、毎晩ポリドントに浸け消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレのドアには「便所」と貼り紙をし、トイレの場所が一目で分かる様にしている。また、個々の排泄パターンをアセスメントし、リハビリパンツから布パンツへと変わられた方もおられる。	必要な方には、排泄時間のチェックを行い、排泄パターンを把握したうえで、無理のないトイレ誘導や水分摂取を促している。季節や昼夜により紙パンツやパット、下着を使い分ける等、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体状況表やカルテには一目で一日の水分量が分かるようにしてある。毎日の運動はもちろん、食事バランスの取れるよう配慮している。また、腹部マッサージをしたりしている。しかし、それでも駄目な時は看護師に報告して連携を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、2日に1回の入浴となっているが、希望に合わせて入浴を行う事ができる(時間等)。また、楽舎内の浴場にとどまらず、個別支援として温泉施設も利用している。	入浴に関しては、夜間の入浴や毎日の入浴など利用者の希望に沿った形で支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には、午前中に日光浴をしたり、外出や運動などで体を動かしたりして、夜間の安眠に繋がる様にしている。また、夜間眠れない方には、安眠ミルク(ホットミルク)をお出して安眠を促すようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事はカルテに閉じてあり、スタッフ全員が薬の効能や副作用の確認ができる。新しく薬が処方になったり、変更された場合には、看護師や居室担当者が中心となって申し送り、日々の様子をカルテに記載し、異常の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を知り、得意な事を見つけ出し、レクリエーションや家事等にお誘いしている。その人らしく生きる事を考え、馴染みの場所に出掛けたり、気分転換に外出(散歩や買い物等)をしたり家事、レクリエーション、行事等手を出しすぎないように自立支援の姿勢を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の生まれた町へ花見に出掛けたり、馴染みの美容室が使いたいという方は2ヶ月に1回一緒にやっている。また今年は「先祖を敬う想いを形にしよう」と目標を決め、ご家族様の協力の元、全員が墓参りに行き、手を合わす事ができた。	自宅への外出や墓参り、散髪・買い物・外食・ドライブ・花見等外出に向けた機会を多く持つよう支援がなされている。誕生日の利用者と一緒に外食に出掛けたりもしており、敷地内の散歩が日課の方もいる。積極的な取り組みがなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事(遠足、花見等)は自分の欲しい物を買える様に支援している。また、希望があれば、一緒に出掛けて、自分のお金で買い物や外食を楽しんでいる(ご家族様了解のもと)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の了解を得て、本人様が自由に電話等ができる様にしている。また、ご家族様から電話を頂いた時には、本人様とお話しができるようにしている。年賀状や暑中見舞い等も一緒に書く様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の景色が良く見え、外からの明かりも入る。鍵をかけず、どこからでも出入りできる造りになっていて、開放感がある。清潔で臭いの無い施設をモットーに換気や掃除を心掛けている。また、季節を感じられる花を生けている。	懐かしさを感じさせる家具や小物、季節の花や絵が飾られ、明るさも適度であり、清潔で居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファやテーブルを置いたりして、利用者様同士が座っておしゃべりができる空間を作っている。天気の良い日には、テラスも使用してお茶等ができる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で過ごしておられた時と同じような家具の配置をしたり、思い出の写真を飾るなどして、安心して生活ができる様にしている。	利用者に自宅で使い慣れた家具や大事な物を持ち込んで頂き、利用者の希望に沿った落ち着いた生活の場となるよう支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差が無く、手すりが付いている。食堂、トイレ、自室がすぐにわかるように利用者様の目線の高さで張り紙などがしてある。		